

特集

ホタルの光を後世に伝えたい、残したい

ずっと、ずっと。

わずか2週間ほどしか見ることのできない
幻想的な光…そしてその光に込められた想いとは？

「こぶしの里」。三芳町で唯一湧き水が出る場所で、春に名前の由来であるこぶしが白い可憐な花を咲かせます。斜面林の中には散策道が設けられ、多くの植物や虫の生息するこの場所は埼玉県のクールスポットにもなっています。

こぶしの里では毎年6月上旬から中旬にかけて、美しいホタルの光の舞を見ることが出来ます。このはかなく、美しい光景はかつて日本各地で見られる夏の風物詩でした……。

しかし、時代は流れ、ホタルの光はどんどん姿を消していきました。三芳町も例外でなく、田んぼに飛び交っていたホタルはいつしか見るこ

とができなくなっていました。自分たちが子どもの頃に見たホタルを今の子どもたちにも見せたい”との想いから平成14年に発足した「竹間沢ほたる育成会」。竹間沢地区の有志で結成されたこの会の地道な活動の結果、こぶしの里でホタルを観賞できるようになりました。

東京や千葉からも訪れる

数年前は約1500人でしたが、昨年は約5300人がホタル観賞に訪れ、町内在住者だけにとどまらず、東京や千葉からホタルの光を観賞しに訪れる人がいるほど、三芳町には欠かせないものとなりました。

竹間沢ほたる育成会の皆さんはこぶしの里へホタルの幼虫を放流するほか、ホタルが無事に育つようにこ



日中のこぶしの里の様子。左上の写真と同じ場所で撮影したもの。さまざまな野鳥が訪れ、四季折々の植物が自生するこの場所は散策や自然観察にぴったりです。

蛍 舞うこぶしの里

この写真は2013年6月5日に撮影したもの。昨年は約5千人が観賞に訪れ、ホタルの光に酔いしれました。

ホタルのえさ

ホタルのえさはカワニナという巻貝の一種です。カワニナはきれいで流れが緩やかな水場に生息していますが、非常にデリケートな生き物で、ごくわずかな水の汚れや、酸素不足、えさ不足でも死んでしまいます。



ホタルの雑学

匹ではなく、「頭」と数えるなど、ホタルの豆知識を知ったうえで観賞するとまた違った見方ができるかもしれません。

ホタルは卵も光る？

ホタルはいつから光るのでしょうか？ホタルはある日突然光り出すわけではなく、実は卵も幼虫もサナギも光ります。成虫のホタルが光るのは結婚相手を探し、子孫を残すためです。

ホタルの好む環境

ホタルの好む条件はいくつかあります。

- ・其一 湿度が高く生暖かい
 - ・其二 暗い
 - ・其三 風がない
- つまり、人間にとっては不快に感じるような、ムシムシとしていて曇っている夜が、ホタルにとっては快適な環境ということになります。